

2023年度
八戸学院大学
健康医療学部 看護学科
保健師養成課程希望者

小 論 文

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かない。
- 2 筆記用具は黒色の鉛筆またはシャープペンシルを使用する。
- 3 問題冊子に印刷不鮮明、ページの落丁などがあるときは、手を挙げて監督者に伝える。
- 4 問題冊子の余白等は適宜利用してよい。
- 5 問題冊子は持ち帰ってよい。

【問い】

2019年に策定された「健康寿命延伸プラン」は、健康寿命の目標と、その目標を達成するための施策について定められた。2040年までに健康寿命を男女ともに2016年に比べて3年以上延伸し、75歳以上とすることを目指している。健康寿命が延びると、本人のQOL（生活の質）の維持・向上はもとより、地域の活性化につながり、結果的に医療・介護費用の増加を抑えることができる」と期待されている。以下の記事を読んで、健康寿命延伸に向けた看護職の役割や支援の方向性について、これまでの体験や学んだことを踏まえあなたの考えを600字以上800字以内にまとめ述べなさい。

健康寿命、理想と現実10年開き 男女とも85歳超、民間調査

健康寿命の理想と現実には10年以上の開きがある。こうした調査結果を、健康計測機器メーカーのタニタがまとめた。介護を受けたり、寝たきりになったりせずに日常生活を送れる期間である健康寿命の理想は男女ともに85歳を超えていた。同社は要介護状態になる一手前の「フレイル（虚弱）」を防ぐ取り組みが健康寿命の延伸につながるとしている。

調査は8月、全国の40歳以上の男女2500人を対象にネットで実施。

理想の健康寿命の平均は男性が85・55歳、女性が86・99歳。厚生労働省調査による実際の健康寿命（男性72・68歳、女性75・38歳）とそれぞれ10歳以上隔たりがあった。

（共同通信社）

健康寿命の理想と現実		
男性		女性
85.55歳	理想	86.99
↑ ↓ いずれも 10年以上の開き		
72.68	現実	75.38

※タニタの調査による。現実の年齢は厚生労働省のデータを引用

出典：Web 東奥 2022年9月27日掲載